

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 18 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21530563

研究課題名（和文） 日本と韓国における周辺国認識の比較研究－複数の他者認識の相関・影響関係の解明

研究課題名（英文） A Comparative Study on Perceptions of Neighboring Countries in Japan and South Korea: Focusing on the Relations Among Neighboring Countries

研究代表者

黄 盛彬 (HWANG SEONGBIN)

立教大学・社会学部・教授

研究者番号：50308095

研究成果の概要（和文）：

本研究では、日本と韓国における周辺国(民)に対する認識を、地政学的空間(世界)認識及びナショナル・アイデンティティの構築との関連で解明することを目的とし、主にメディア言説を分析対象として、言説分析、受け手分析を行った。その結果、他国(民)への認識が、両者関係のみに左右されず、周辺の様々な他者との関係により影響されることや、当事者及び重要な他者を含む地域の情勢等についての認識、つまり地政学的世界認識にも影響されることを主張した。

研究成果の概要（英文）：

In this research, I aimed to clarify how the perceptions of neighboring countries in Japan and Korea have been interlinked and mutually influenced in complicated ways being affected by the changes of geographical worldviews and national identities in each country. Base on reviews of the literature and the case studies, I argue that the perceptions of neighboring countries or people in both countries have been influenced not only by bilateral or mutual relation but also by multilateral relations of neighboring countries and the changes of geographical or geopolitical worldviews and national identities in each country.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：他者認識、ナショナリズム、ステレオタイプ、日本、韓国、ナショナル・アイデンティティ、韓流、ポピュラーカルチャー

1. 研究開始当初の背景

本研究では、日本と韓国における周辺国

(民)に対する認識(イメージ・表象)がそれぞれどのような相関・影響関係にあるのかを、地政学的空間(世界)認識及びナショナ

ル・アイデンティティの構築との関連で解明しようとした。

他国・国民に対する認識やイメージ、表象については多くの研究の蓄積がある。しかし、日本、韓国、中国、そして欧米（とりわけ、米国）をも含めた多国間（multi-lateral）関係のなかで、他国認識を問うた研究はそれほど多くなかった。それは、これまでの研究が、重層的な地政学的空間への位置づけを欠きながら、すすめられてきたからであろう。すなわち、韓国における日本、中国、米国への認識が、相互にどのような関係性を有しながら、成立し、変容していったのかなどの問題が、十分に解明されていないのである。

他国（民）への認識が、両者関係のみに左右されず、周辺の様々な他者との関係により影響されることや、当事者及び重要な他者を含む地域の情勢等（コンテクスト）についての認識、つまり地政学的世界認識にも影響されることを考慮すれば、他者認識の複雑さや両義性、その表象における多様な局面を総合的に理解し、さらに将来への予測も可能になると、本研究は想定した。そして、また、他者認識を近代国家としてのナショナル・アイデンティティとの関連性のなかで、把握しようとした。つまり、他国や他国民に対する認識、イメージとは、それとの対比において描かれ、認識される自画像＝アイデンティティと対をなすものである、という視点であった。

2. 研究の目的

日本と韓国における周辺国（民）に対する認識（イメージ・表象）がそれぞれどのような相関・影響関係にあるのかを、地政学的空間（世界）認識及びナショナル・アイデンティティの構築との関連で解明することを目的とした。

3. 研究の方法

以下の三つのアプローチから研究を展開した。

第一に、日本と韓国における他国・他国民への認識、イメージ、表象に関する先行研究および調査結果から、その時系列な把握を試みながら、地政学的状況への認識と「複数の周辺国」に対する認識の相関、影響関係を明らかにする。既存の研究文献、日本と韓国における対外認識調査の結果を収集し、国際情勢および国内政治状況、そして、日韓それぞれにおける周辺国および地政学的情勢に対する認識についての調査結果を時系列で把握し、それらの関連・影響関係を探求する。具体的には、主要なメディアや世論調査機関、政府などが実施する調査の結果および関連の学術論文が分析対象となるが、そのほかに

も、新聞などのジャーナリズム、そして文学作品、映画、テレビドラマといったポピュラーカルチャーに表れた他者認識の質的分析を加えることによって、より総合的なリアリティを把握しようとした。

第二に、研究期間中においても、両国における新聞、放送、映画について、「周辺国（民）の表象」に着目して、資料の収集と分析を実施した。可能な限り、重要な時期や局面を抽出し、全体の時系列的な傾向や特徴の把握を試みた。

第三に、受け手分析として、日本と韓国の両方において、メディアでの「周辺国（人）表象」がいかに関与しているのかについての「解読過程」の調査（＝「意識調査」）も試みた。大学生及び社会人など幅広い層を対象に聞き取り調査を実施した。また、分析対象として、近年、普及が加速され、「もう一つの言論(alternative media)」として注目を集めているインターネットの掲示板などにも注目した。以上のような分析方法を用いて、統計資料としては存在しない、また統計資料だけでは見えない部分を浮かび上げようとした。

4. 研究成果

初年度においては、先行研究の整理及び分析を中心に行い、内容分析（言説分析）や受け手分析については、パイロット的な調査を行いつつ、翌年度以降の本格的な調査のための設計に集中した。具体的には、各種メディア、世論調査機関、政府関連機関による調査結果などを収集分析し、時系列及び相関・影響関係を解明する作業を展開した。本研究のために収集した各種メディア・データを用いた実証分析の結果の一部を、雑誌論文や学会発表の形で発表した。

2年目の2011年度においては、初年度からの先行研究の整理及び分析を継続しつつ、事例分析を中心に展開した。また、各種メディア、世論調査機関、政府関連機関による調査結果などを収集分析し、時系列及び相関・影響関係を解明する作業も継続して取り組んだ。研究成果としては、雑誌論文や学会発表の形で発表した。

一つのパイロット事例として、「高校無償化政策」をめぐる世論の動向についての学会発表では、受け手分析の一環として、インターネット空間の世論の分析にも取り組んだ。

研究開始2年目からは、「テレビは歴史を語るか」というタイトルで、『放送レポート』誌上で連載を開始したが、ここでは「（日本の）開港150周年」、「日韓併合100年」を記念して放送される日本側のテレビ番組の内容分析（言説分析）の成果を、放送業界及び一般読者向けに書いた。約2年間の連載

で取り上げたテーマは、「日本の台湾領有とその後の歴史認識」、「韓国併合」、「3.1独立運動と親日派」、「戦時動員」、「志願兵・女子勤労挺身隊員・特攻隊員」、「在日コリアンの戦後」などであったが、いずれの連載においても、戦前・戦後の現代史を語る際の「自画像と他者認識の関連」を意識して分析に取り組んだ。また、韓流ブームのなかの日本側の韓国認識にも注目し、マスメディアやネット上の言説を比較検討し、同時に、東日本大震災後の状況に注目し、内外の報道の分析やニュース受容分析を行った。分析の結果、「ナショナル・アイデンティティと他者認識」は、かつてのようなナショナルな物語(ナラティブ)の影響が際立つという状況ではなくなりつつあるという現実が窺えた。グローバル化の影響や、階層化の深化といった社会全体の変化や、メディアの生態の変化などが原因として挙げられるが、一方で、地上波テレビや全国紙といったナショナルなパブリックを構成する空間においては、依然としてナショナルなナラティブが支配的である現実もみられた。

主に英語圏の学会で発表した研究成果は、日本側の米国、西洋、アジア認識の問題群についてであったが、国内で発表してきた論考と総合する形で、単著としての出版を目指したい。

以上のような先行研究への総合的なレビュー及び実証分析の結果をもとに、本研究では、他国(民)への認識が、両者関係のみに左右されず、周辺の様々な他者との関係により影響されることや、当事者及び重要な他者を含む地域の情勢等(コンテクスト)についての認識、つまり地政学的世界認識にも影響される、といった研究仮説を立証し、他者認識の複雑さや両義性、その表象における多様な局面を総合的に理解することに一定の寄与をした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 12 件)

1. 黄盛彬「テレビは歴史を語れるか 8 在日コリアンへの同情的な眼差し」『放送レポート』第 236 号, pp. 54-58, 2012, 査読無
2. 黄盛彬「韓流と反韓流の交差-日本人アイデンティティと韓国認識」『日本學』(韓国・東國大学校文化學術院日本學研究所), 第 33 卷, pp. 133-167, 2011, 査読有
3. 黄盛彬「テレビは歴史を語れるか 7 在日コリアンの戦後」『放送レポート』第 233 号, pp. 58-61, 2011, 査読無
4. 黄盛彬「テレビは歴史を語れるか 6 志願

兵・女子勤労挺身隊員・特攻隊員」『放送レポート』第 232 号, pp. 60-63, 2011, 査読無

5. 黄盛彬「テレビは歴史を語れるか 5 戦時動員」『放送レポート』第 231 号, pp. 60-63, 2011, 査読無

6. 黄盛彬「テレビは歴史を語れるか 4 三・一独立運動と“親日派”」『放送レポート』第 229 号, pp. 62-65, 2011, 査読無

7. 黄盛彬「テレビは歴史を語れるか 3 伊藤博文と安重根」『放送レポート』第 228 号, pp. 60-63, 2010, 査読無

8. 黄盛彬「テレビは歴史を語れるか 2 日本と朝鮮半島」『放送レポート』第 227 号, pp. 58-61, 2010, 査読無

9. 黄盛彬「テレビは歴史を語れるか 1 アジアの一等国」『放送レポート』第 226 号, pp. 32-36, 2010, 査読無

10. 黄盛彬「『もうろう会見』と日本型ジャーナリズム」『放送レポート』218 号, pp. 26-31, 2009, 査読無

11. 黄盛彬「韓国メディア法をめぐる大論争」『放送レポート』220 号, pp. 32-35, 2009, 査読無

12. 黄盛彬「オバマ報道を考える」『大衆文化』(立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター発行), 第 2 号, pp. 79-88, 2009, 査読無

〔学会発表〕(計 14 件)

1. Hwang, Seongbin, Media Framing of Protesting People in the Streets: a Case Study of the Fukushima Nuclear Crisis, AAS(Association for Asian Studies), 2012-03-18, Sheraton Centre Hotel, Toronto, CANADA
2. Hwang, Seongbin, Phenomena of Korean Pop Culture in Japan, Korean Wave (*Hallyu*) Workshop, Center for Korean Studies, University of California, Berkeley (招待講演), 2012-2-17, University of California, Berkeley, U.S.A.
3. Hwang, Seongbin, A Comparative Study of Disaster News Consumption in Japan and Korea, Evolving News Consumption in New Media Environment: Theorizing the Impact of New Communication Technology on News Consumption, Hosted by KNAC (Korea News Agency Commission),

2011-08-15, Center for Korean Studies,
University of Hawaii, Manoa, Honolulu,
USA

4. 黄盛彬「韓流ブームのなかの日本人の韓国認識（原題：한류 붐 속의 일본인의 한국인식）」東國大学校文化學院日本學研究所 第44回 國際學術シンポジウム 戦後日本人の韓国認識（招待講演）2011年6月25日 韓国ソウル市

5. Hwang, Seongbin, High School Tuition Waiver Policy and *Chosun School* in Japan, International Conference on Agenda Setting in Flux: The Impact of New Communication Technology on Changing Role of Traditional Media in Agenda Setting Process, 2010-12-13,

6. Hwang, Seongbin, Post-Americanization and “Cool Japan”: Ichiro and Matsui as National Pride and Their relations with America, Media and Culture: Global Homogeneity and Local Identity, Asian Congress For Media and Communication 2010 Conference, 2010-10-29, University Sains Malaysia

7. Hwang, Seongbin, Asian Image as “Pro or Anti-Japan” and Nationalism in Japan, *IAMCR (The International Association for Media and Communication Research)*, 2010-7-22, University of Minho, Braga, Portugal

8. Hwang, Seongbin, Changes and Continuities in Media System in the Post-Democratization: A Case Study of Far Eastern Democracies, *IAMCR (The International Association for Media and Communication Research)*, 2010-7-21, University of Minho, Braga, Portugal

9. Hwang, Seongbin, The Meaning of “Obama” in Japan: Change of What?, *IAMCR (The International Association for Media and Communication Research)*, 2010-7-20, University of Minho, Braga, Portugal

10. Hwang, Seongbin, Japanese Major Leaguer Ichiro and Matsui as National Pride: Japanese National Identity and America, *IAMCR (The International Association for Media and Communication Research)*, 2010-7-19, University of Minho Braga, Portugal

11. 黄盛彬、韓流ドラマの現在、ラマ映像の

國際交流、第19回 JAMCO オンライン國際シンポジウム、2010年2月1日から28日まで、財団法人放送番組國際交流センター (JAMCO) ウェブサイト

<http://www.jamco.or.jp/symposium/19symposium/index.html>

12. Hwang, Seongbin, Changes and Continuities in Media System in Post-Democratization- The Japanese Case, *The News Flows in Asia*, International Conference hosted by KSJCS (Korean Society for Journalism & Communication Studies), 2009-8-29, Press Center, Korea

13. Hwang, Seongbin, The Construction of “China Image” and Japanese National Identity, ICAS (International Convention of Asia Scholars), 2009-8-8, Daejeon Convention Center, Korea

14. Hwang, Seongbin, Shadow of Cool Japan: A Production field of Television, *The Production of Culture in East Asia-Emerging Cultural Subjects*, IEAS in SungKonghoe University, 2009-5-29, SungKonghoe University, Korea

6. 研究組織

(1) 研究代表者
黄 盛彬 (HWANG SEONGBIN)
立教大学・社会学部・教授
研究者番号：50308095

(2) 研究分担者
なし

(3) 連携研究者
なし